



技術で社会に貢献する企業集団、私たちは川田グループです

川田テクノロジーズ株式会社(3443)

2026年3月期 中間期

決算説明会

2025年11月25日 10:30～

◎第一部

1. 2026年3月期中間期の業績
2. 2026年3月期末の業績見通し
3. 第3次中期経営計画の数値目標見直しと進捗
4. 株主還元の見通し

◎第二部

「建設×ロボットで現場を変える」

1. 2026年3月期中間期の業績

2026年3月期中間期 収益状況

鉄構、土木セグメントで工事進捗伸びず、売上高減。期中に大型設計変更を獲得した前期比で利益も減少

(単位：百万円)

	2024年3月期 中間		2025年3月期 中間		2026年3月期 中間		増減(25-26)	
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	金額	比率
売上高	64,325	100.0%	66,430	100.0%	55,346	100.0%	-11,084	-16.7%
売上総利益	8,507	13.2%	10,581	15.9%	9,328	16.9%	-1,253	-11.8%
営業利益	3,096	4.8%	4,801	7.2%	3,172	5.7%	-1,629	-33.9%
経常利益	3,695	5.7%	6,443	9.7%	3,958	7.2%	-2,484	-38.6%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,594	4.0%	5,017	7.6%	3,142	5.7%	-1,874	-37.4%
1株当たり 中間純利益 (円)	147.82	-	290.82	-	180.53	-	-110.29	-37.9%

2026年3月期中間期 受注状況

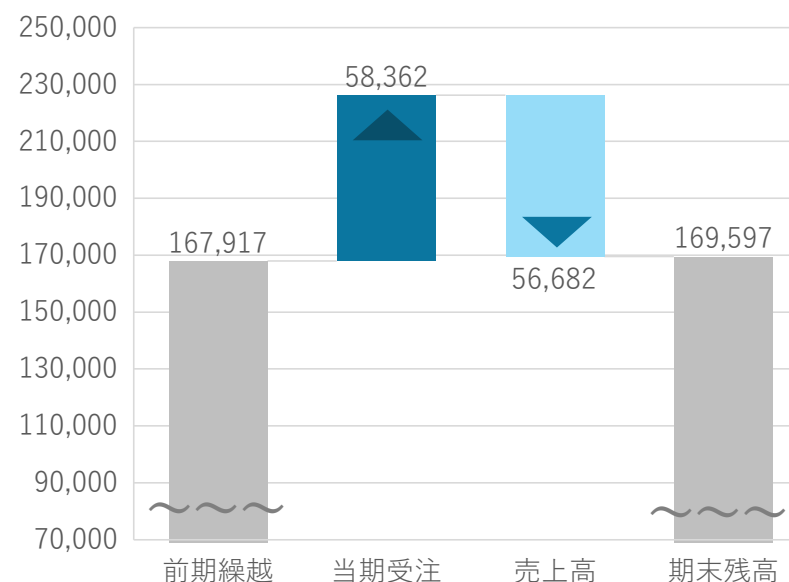
鉄構セグメントにおける鋼製橋梁の大型更新工事、建築鉄骨の首都圏大型物件などを積み上げ、前期比大幅増。手持ち工事の進捗は伸びを欠いたこともあり期末受注残高は1,700億円を臨む過去最高水準に達する。豊富な受注残をいかにこなすかが今後のポイント

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
前期繰越 ※前期末	154,364	154,730	167,917	+13,186 +8.5%
当期受注	53,215	47,710	58,362	+10,651 +22.3%
売上高	65,038	67,369	56,682	-10,687 -15.9%
期末残高	142,541	135,071	169,597	34,525 +25.6%

※セグメント間の取引は相殺消去していません

(単位：百万円)



2026年3月期中間期 BS指標・キャッシュフロー状況

営業債権の回収進み運転資本の借入返済、総資産減少。自己資本比率は引き続き改善。
工程初期にある物件や「原価先行」状態が続きがちな更新・保全工事の増加で工事損失引当金はやや増加傾向

【総資産・純資産・自己資本比率】

(単位：百万円)

	202403 期末	202503 期末	202603 中間	増減 (25末-26中)
総資産	160,238	165,511	162,503	-3,008 -1.8%
純資産	82,363	91,569	93,055	+1,486 +1.6%
自己資本比率	51.1%	55.0%	57.0%	+2.0pts

【キャッシュフロー】

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25中-26中)
営業	7,118	-5,038	4,061	+9,100
投資	-859	-1,197	-39	+1,158
財務	-8,215	4,781	489	-4,291

【工事損失引当金】

(単位：百万円)

	202403 期末	202503 期末	202603 中間	増減 (25末-26中)
BS計上値	1,674	2,908	3,661	+752 +25.9%
うち、鉄構セグ	1,212	1,839	2,055	+216 +11.7%
うち、土木セグ	461	1,068	1,598	+529 +49.6%

セグメント別概況 4つの事業セグメント

鉄構セグメント

土木セグメント

建築セグメント

ソリューションセグメント

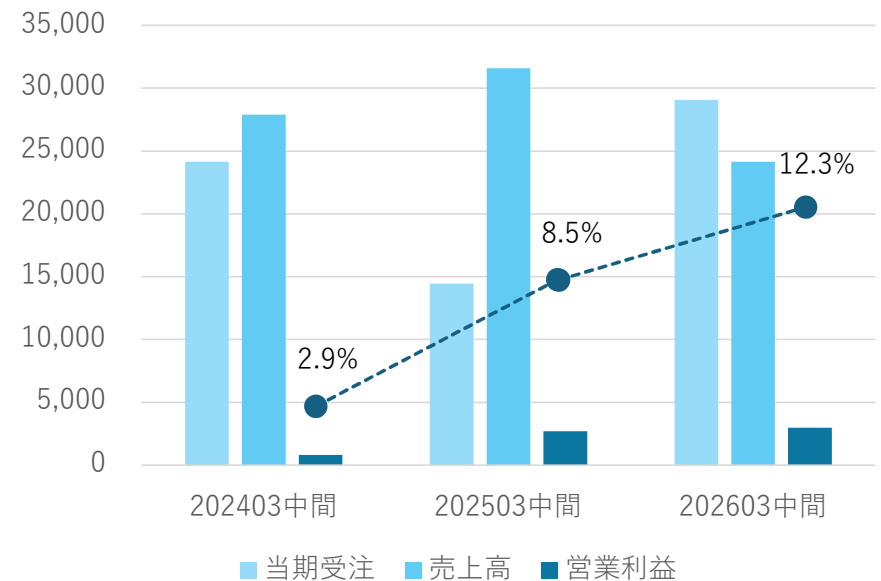


鋼製橋梁：発注状況は低調も、大型更新工事のJV受注で前期比大幅増。物件の大型化傾向のなか長工期の物件多い。手持ち工事の進捗伸びず売上高減も、設計変更複数獲得し利益・利益率ともに前期比増

建築鉄骨：受注環境厳しいが、首都圏・大阪IR関連等の大型物件受注で前期比大幅増
工事進捗伸びず売上高減。設計変更獲得で利益に貢献も、売上減の影響大きく利益は減少

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	24,142	14,443	29,070	+14,627 +101.3%
期末受注残	81,231	70,408	100,285	+29,877 +42.4%
売上高	27,901	31,597	24,158	-7,439 -23.5%
営業利益	798	2,695	2,975	+280 +10.4%
営業利益率	2.9%	8.5%	12.3%	+3.8pts



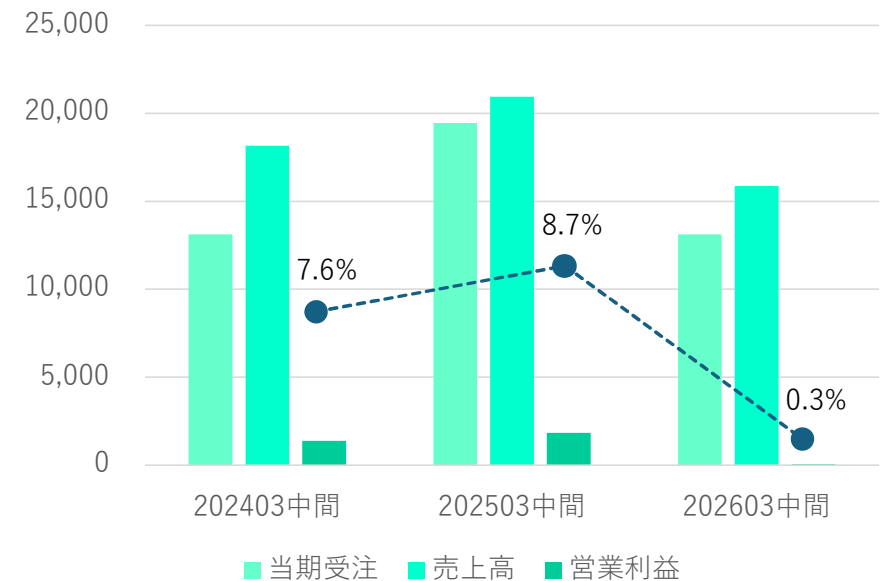
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期中間期 ②土木セグメント

厳しい発注環境のなか受注を積み上げるも、大型物件が集中した前期比では減少。特に新設・保全物件で受注間もない物件が本格稼働に至らないことなどで売上高も減少。ほか、現場エンジニアリングが重要な更新・保全物件で「原価先行」状態のものが複数あることで営業利益も前期比大幅減

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	13,120	19,454	13,110	-6,343 -32.6%
期末受注残	44,069	43,686	47,947	+4,260 +9.8%
売上高	18,151	20,952	15,863	-5,088 -24.3%
営業利益	1,372	1,828	48	-1,779 -97.3%
営業利益率	7.6%	8.7%	0.3%	-8.4pts

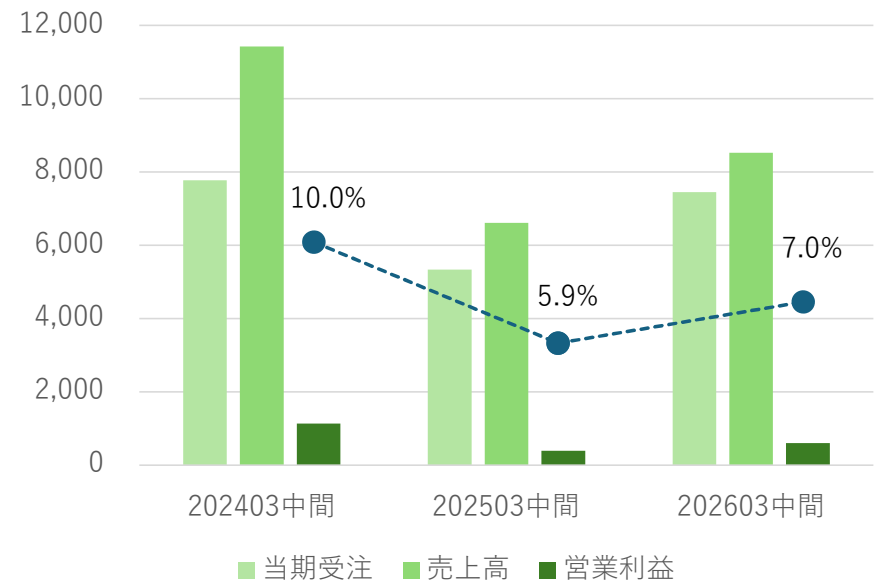


※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

既に設計作業を請け負っていた大型システム建築物件について、施工部分も受注したことなどで受注前期比増。鉄構・土木セグメントと異なり、大型物件を中心に手持ち工事が順調に進捗し売上高前期比増。採算性の高い工事の進捗や竣工間近の物件でコストが引き締まったことなどが営業利益に貢献

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	7,777	5,332	7,451	+2,118 +39.7%
期末受注残	12,877	16,584	16,713	+128 +0.8%
売上高	11,427	6,610	8,525	+1,915 +29.0%
営業利益	1,137	393	598	+205 +52.2%
営業利益率	10.0%	5.9%	7.0%	+1.1pts

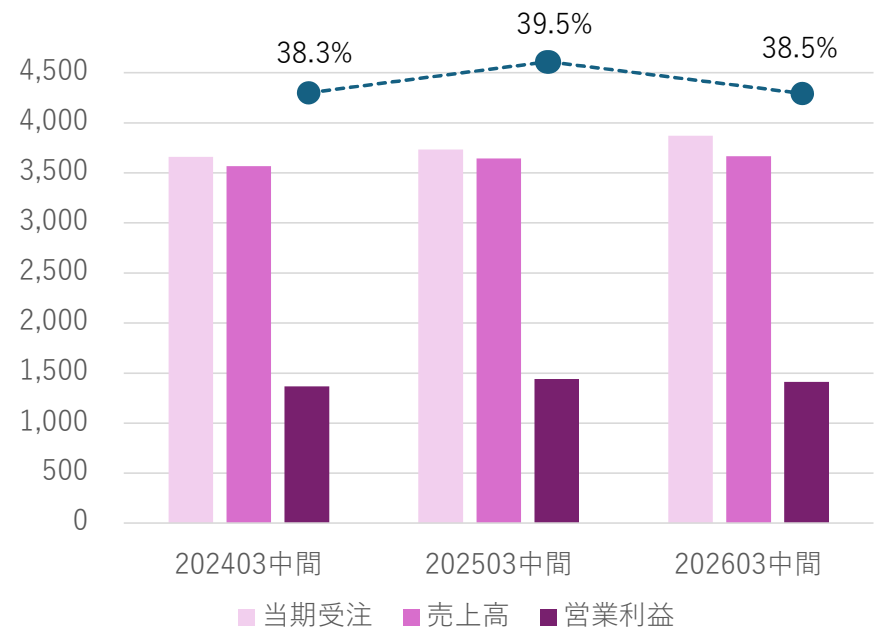


※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

ソフトウェア：自社製品3D-CAD「V-nas Clair」に加えクラウドサービスも好調。積極的な広告宣伝で利益減
ロボット：直接販売が伸び受注台数は前期比増加。売上高は減少も利益は微減に留まる

(単位：百万円)

	202403 中間	202503 中間	202603 中間	増減 (25-26)
当期受注	3,659	3,733	3,872	+139 +3.7%
期末受注残	3,448	3,588	3,809	+220 +6.1%
売上高	3,567	3,643	3,666	+23 +0.6%
営業利益	1,367	1,440	1,411	-29 -2.1%
営業利益率	38.3%	39.5%	38.5%	-1.0pts

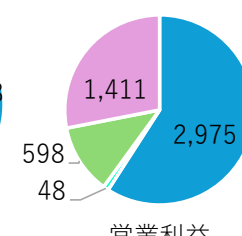
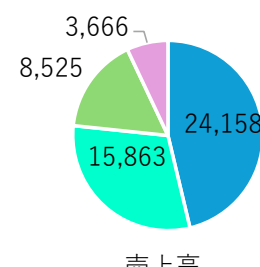
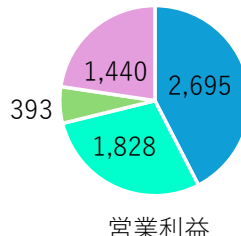
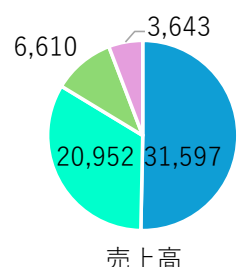
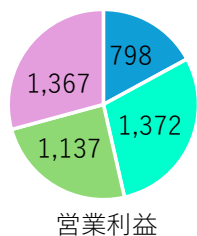
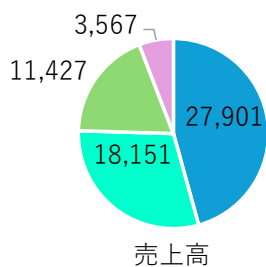


※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期中間期 セグメント別 収益の推移

(単位：百万円)

	2024年3月期 中間			2025年3月期 中間			2026年3月期 中間		
	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率	売上高	営業利益	営利率
鉄構	27,901	798	2.9%	31,597 +13.2%	2,695 +237.6%	8.5% +5.6pts	24,158 -23.5%	2,975 +10.4%	12.3% +3.8pts
土木	18,151	1,372	7.6%	20,952 +15.4%	1,828 +33.2%	8.7% +1.1pts	15,863 -24.3%	48 -97.3%	0.3% -8.4pts
建築	11,427	1,137	10.0%	6,610 -42.2%	393 -65.4%	5.9% -4.1pts	8,525 +29.0%	598 +52.2%	7.0% +1.1pts
ソリューション	3,567	1,367	38.3%	3,643 +2.1%	1,440 +5.4%	39.5% +1.2pts	3,666 +0.6%	1,411 -2.1%	38.5% -1.0pts

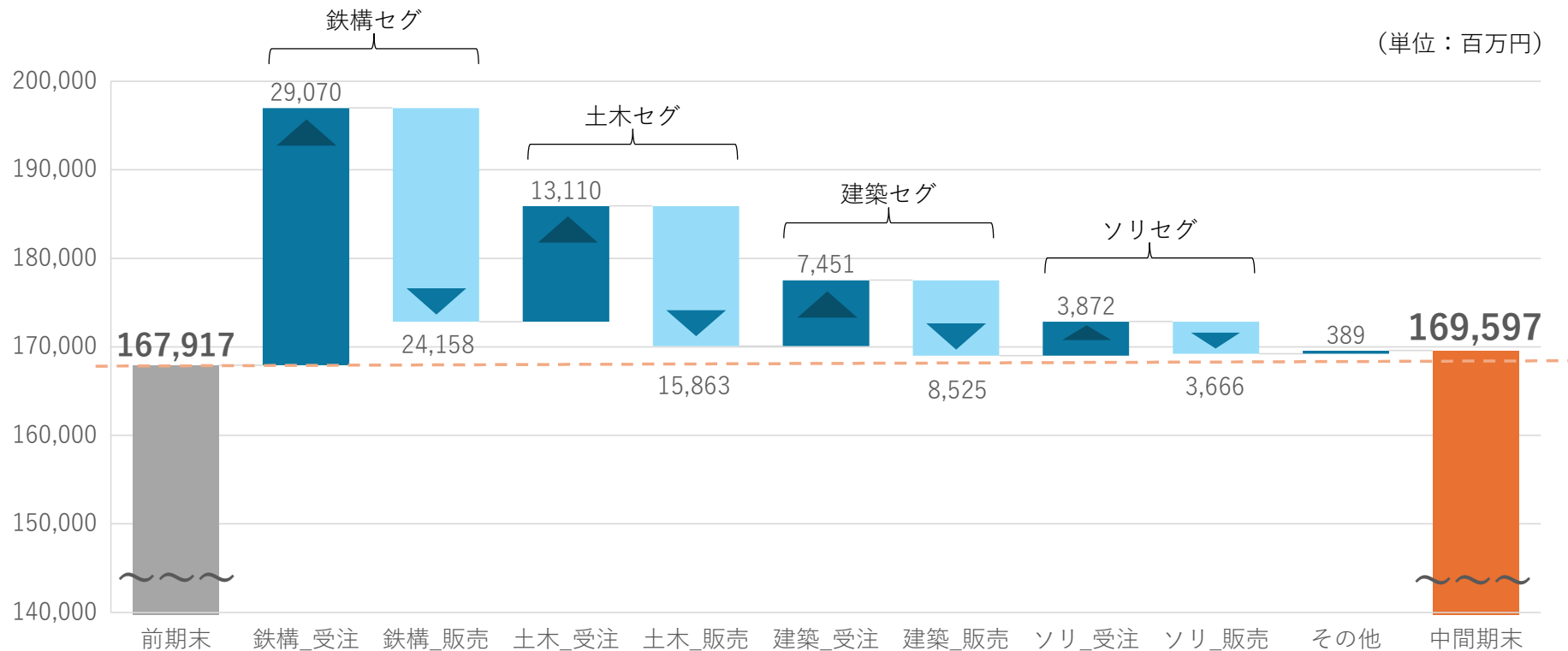


※ ■鉄構 ■土木 ■建築 ■ソリューション を示します

※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2026年3月期中間期 セグメント別 受注状況

期末受注残は過去最高水準。このほか、決算数値には表れないが後工程の製作・施工契約にかかる「優先交渉権」付きの設計作業などを複数抱え、実質的にはこれ以上に高い水準にある。これをいかに安定的にこなすかがポイント。担い手不足や物件の大型化傾向による長工期の物件などもあり、売上計上ペースは鈍化の懸念も



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

2. 2026年3月期末の業績見通し

2026年3月期末 業績見込み

鉄構・土木・建築セグメントにおける手持ち物件の進捗が当初想定を下回る見通しで、売上高見込み引き下げ。竣工予定の複数物件で当初想定を上回る設計変更の獲得が見込まれ、各段階利益は据え置き

(単位：百万円)

	2025年3月期 期末	2026年3月期 中間	2026年3月期 (当初見込) ※1	2026年3月期 (修正見込) ※2	増減	
					25期末- 26修正見込	当初見込- 修正見込
売上高	132,905	55,346	125,000	115,000	-17,905 -13.5%	-10,000 -8.0%
営業利益	9,684	3,172	7,800	7,800	-1,884 -19.5%	-
経常利益	12,616	3,958	9,600	9,600	-3,016 -23.9%	-
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	11,107	3,142	7,500	7,500	-3,607 -32.5%	-
1株当たり 当期(中間)純利益 (円)	642.96	180.53	431.42	430.05	-212.91 -33.1%	-

※1 2025/5/13発表値によります

※2 2025/11/11発表値によります

2026年3月期末見込 ①鉄構セグメント

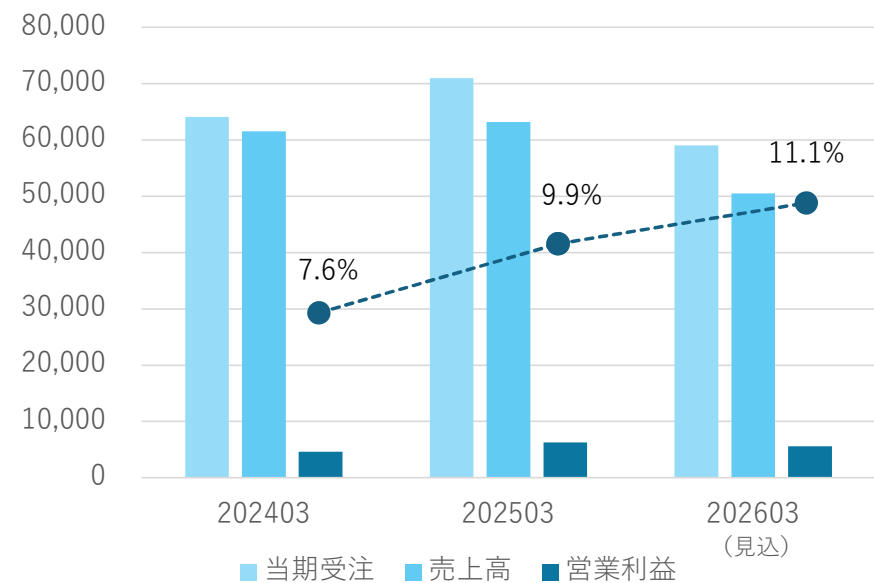
売上高目標引き下げだが、営業利益目標は引き上げ

鋼製橋梁：新設市場は長期的な減少傾向も、更新・保全市場は今後も継続的に存在。足元の市場は金額ベースで増加傾向。ビッグプロジェクトも数年後から本格化で底堅い事業環境を想定も、当期は厳しい環境

建築鉄骨：建設コスト高騰、担い手不足、働き方改革など複合的な要因で計画の後ろ倒し散見されるが、引き続き首都圏・大阪IR関連など大型プロジェクト多数計画され、総じて堅調な需要を期待

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	64,091	70,983	59,000	59,000	-11,983 -16.9%
期末受注残	87,561	95,372	98,372	103,872	+8,500 +8.9%
売上高	61,519	63,172	56,000	50,500	-12,672 -20.1%
営業利益	4,648	6,274	5,250	5,600	-674 -10.7%
営業利益率	7.6%	9.9%	9.4%	11.1%	+1.2pts



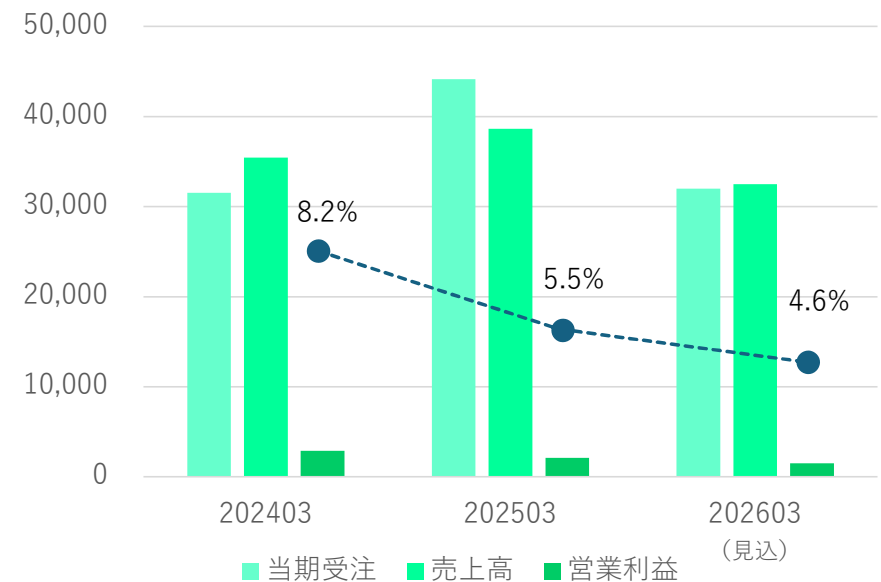
※セグメント間の取引は相殺消去していません

2026年3月期末見込 ②土木セグメント

PC橋梁市場も、鋼製橋梁と同様に長期的には緩やかな減少傾向。高速道路会社の大規模床版取替工事の発注も、建設コスト高騰による一時的な予算枯渇や人手不足などを背景に短期的には端境期。受注競争大変厳しいが受注見込みは据え置き。手持ち工事の進捗は伸びない見通しで、売上高・営業利益見込ともに引き下げ

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	31,516	44,137	32,000	32,000	-12,137 -27.5%
期末受注残	45,184	50,700	47,700	50,200	-500 -1.0%
売上高	35,432	38,622	35,000	32,500	-6,122 -15.9%
営業利益	2,891	2,106	1,900	1,500	-606 -28.8%
営業利益率	8.2%	5.5%	5.4%	4.6%	-0.9pts

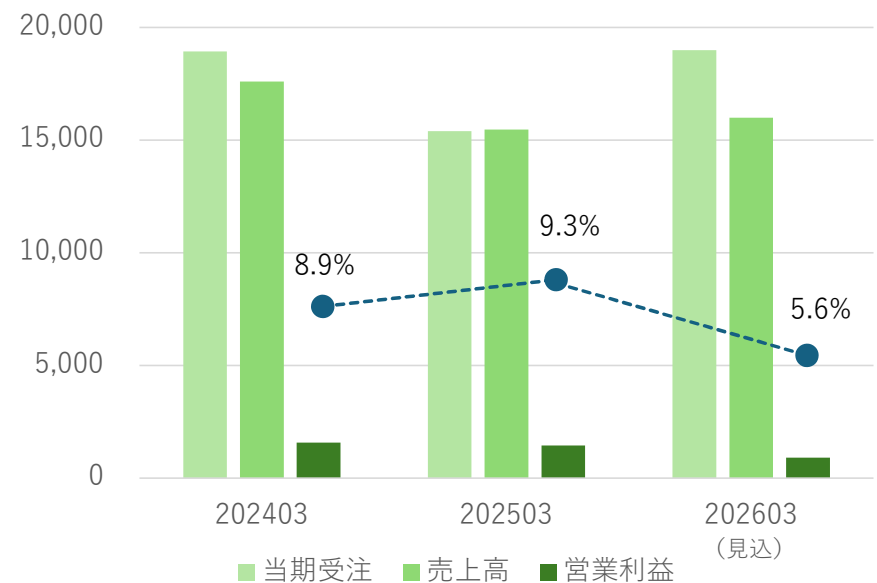


※セグメント間の取引は相殺消去していません

大都市圏近郊の多層階倉庫の需要は一巡し地方都市の低層物件へシフト。国内への製造拠点の回帰の動きで新たな需要喚起を期待。仕様変更などで当初想定以上に設計に時間を要し、施工部分の契約期ズレの懸念等あり。期首に見込んでいた足の速い物件の受注少なく当期売上見通しを引き下げ。佐藤工業とのJVで取り組む大型多層階倉庫が竣工に向かうが、一層の採算性改善に努める

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	18,936	15,398	19,000	19,000	+3,602 +23.4%
期末受注残	17,862	17,788	18,788	20,788	+3,000 +16.9%
売上高	17,601	15,473	18,000	16,000	+527 +3.4%
営業利益	1,574	1,444	850	900	-544 -37.7%
営業利益率	8.9%	9.3%	4.7%	5.6%	-3.7pts



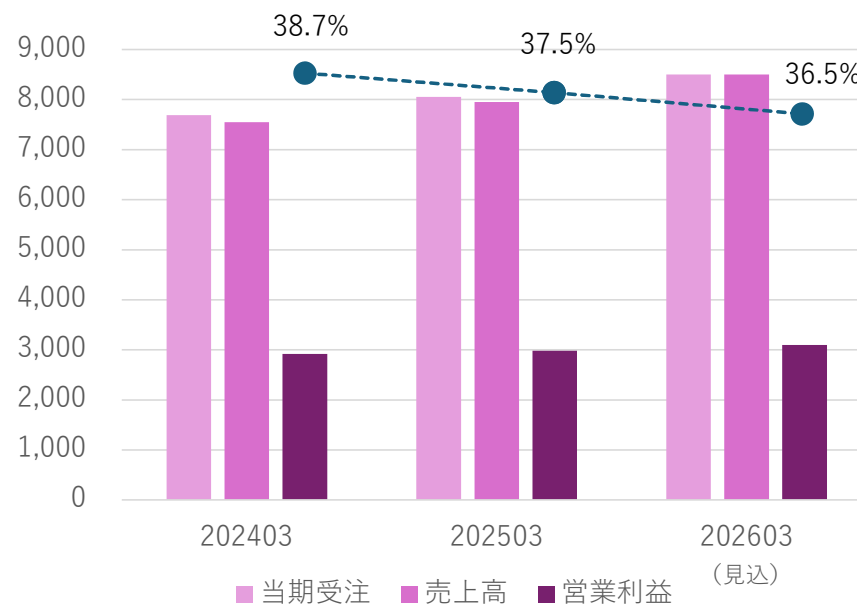
※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

ソフトウェア：自社製品3D-CADとクラウドサービスの好調継続見込む。ソフトウェア会社から「情報サービスコンサルタント」へ飛躍目指す。地下埋設の水道・電力・通信管などの見える化で公共インフラ分野への貢献目指す

ロボット：AIの加速度的な発展・普及や人手不足を背景に、ロボットの実世界への適用も一層進む。引き続き黒字化に向け努力

(単位：百万円)

	202403	202503	202603 当初見込	202603 修正見込	増減 (25-26見込)
当期受注	7,692	8,053	8,500	8,500	+447 +5.6%
期末受注残	3,498	3,603	3,603	3,603	-
売上高	7,550	7,949	8,500	8,500	+551 +6.9%
営業利益	2,919	2,982	3,100	3,100	+118 +4.0%
営業利益率	38.7%	37.5%	36.5%	36.5%	-1.0pts



※セグメント間の取引は相殺消去しておりません

3. 第3次中期経営計画の数値目標見直しと進捗

第3次中期経営計画(2024年4月～2026年3月)の概要

位置付け	KAWADA VISIONの実現に向けて、川田グループの持続的な成長と持続可能な社会の実現の両立を目指していく。事業環境が大きく変化する中、真摯に 経営課題 と向き合い、迅速かつ柔軟に解決することで、 レジリエント企業を目指す
-------------	---

経営課題	資本コストを意識し、 ①ROE向上 を目指した経営を推進するとともに、それを支える ②経営基盤の強化 を図る	①ROE向上	基幹事業における収益力強化、成長事業における事業規模拡大、資本効率を重視した経営にシフト
		②経営基盤強化	人材確保・人材育成とDXによる生産性向上、IPランドスケープの推進、持続可能な社会の実現に向けたサステナブル経営の推進

<テーマ> 『KAWADA VISION』の実現を目指し、**レジリエント企業に変貌**する

基本方針	基幹事業の持続的成長	100年かけて培ってきた技術を軸に、ビッグプロジェクトに参画するとともに、拡大している橋梁の保全・補修市場への対応強化
	成長事業の拡大・創出	成長が見込まれる事業分野に経営資源を投入するとともに、「川田ならではの」の価値創造により新規事業を創出
	サステナビリティ経営の推進	グループ理念である「安心して快適な生活環境の創造」のもと社会課題の解決を起点とした責任ある企業経営を貫き中長期的な企業価値の向上
	資本効率経営への転換	ROE経営を推し進めるとともに、「八方よし」の精神での企業経営を継続

数値目標の一部見直し (売上高のみ下方修正)

	第1次中計 (実績)	第2次中計 (実績)	第3次中計 (当初)	第3次中計 (2025/5/13修正)	第3次中計 (2025/11/11修正)
売上高 (3か年累計)	3,526億円	3,373億円	3,910億円以上	3,910億円以上	3,770億円以上 (-3.6%)
営業利益 (3か年累計)	172億円	170億円	186億円以上	261億円以上	261億円以上
当期純利益① (3か年累計)	165億円	157億円	156億円以上	261億円以上	261億円以上
当期純利益② (3か年累計、持分法 投資損益除く)	109億円	109億円	121億円以上	196億円以上	196億円以上
ROE① (最終年度)	11.3%	5.8%	8.0%以上	8.0%以上	8.0%以上
ROE② (最終年度、関係会社 株式見合い除く)	15.8%	7.3%	11.0%以上	11.0%以上	11.0%以上
株主還元 (3か年平均)	8.5%	16.0%	30.0%目途	30.0%目途	30.0%目途

各年度における数値目標の進捗状況

売上高目標引き下げ（3年累計で3,910億円から3,770億円へ）も、他目標は据え置き

（単位：億円）

	当初目標 (2024/5)	修正後 目標 (2025/11)	3か年状況								
			2024年3月期 (1年目)		2025年3月期 (2年目)			2026年3月期 (最終年度・見込)			
			実績	進捗率	実績	累計	進捗率	単年見込	3年累計	達成率	当初計画比
売上高 (3か年累計)	3,910	3,770	1,291	33.0%	1,329	2,620	67.0%	1,150	3,770	100.0%	96.4%
営業利益 (3か年累計)	186	261	87	33.5%	96	184	70.6%	78	262	100.4%	141.0%
当期純利益① (3か年累計)	156	261	75	28.9%	111	186	71.5%	75	261	100.2%	167.6%
当期純利益② (3か年累計、持分法投資損益 除く)	121	196	58	29.7%	80	138	70.8%	58	196	100.4%	162.6%
ROE① (最終年度)	8.0%	8.0%	9.6%	-	12.8%	-	-	8.0%	-	達成見通し	
ROE② (最終年度、関係会社株式見 合い除く)	11.0%	11.0%	13.8%	-	17.0%	-	-	11.1%	-	達成見通し	
配当性向 (3か年平均)	30.0% 目途	30.0% 目途	30.2%	-	29.6%※	-	-	30.2%	30.0%	達成見通し	

※配当方針に基づき「非経常的な特殊要因に基づく損益」を配当原資から除いて計算しております
これを除かない場合の配当性向は「22.6%」となります

4. 株主還元の見通し

株主還元の見通し

当期配当 年間130円／株 を引き続き見込む。中間配当65円、期末配当も65円の見込み

配当方針（2024年11月12日より）

- ・ 企業価値向上とともに株主の皆様への**利益還元を最重要施策の一つとして認識**
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益から**非経常的な特殊要因による損益（※）**を除外し、**連結配当性向30%程度を目途に安定的な配当を継続して実施**することを基本方針
- ・ 第3次中計の残り期間（2025年度）に係る1株当たり配当金の下限を年間90円

Q.「非経常的な特殊要因による損益」とは？

A. 通常の事業活動から生じたものではない、特に将来に亘りキャッシュフローを期待できない会計上の損益

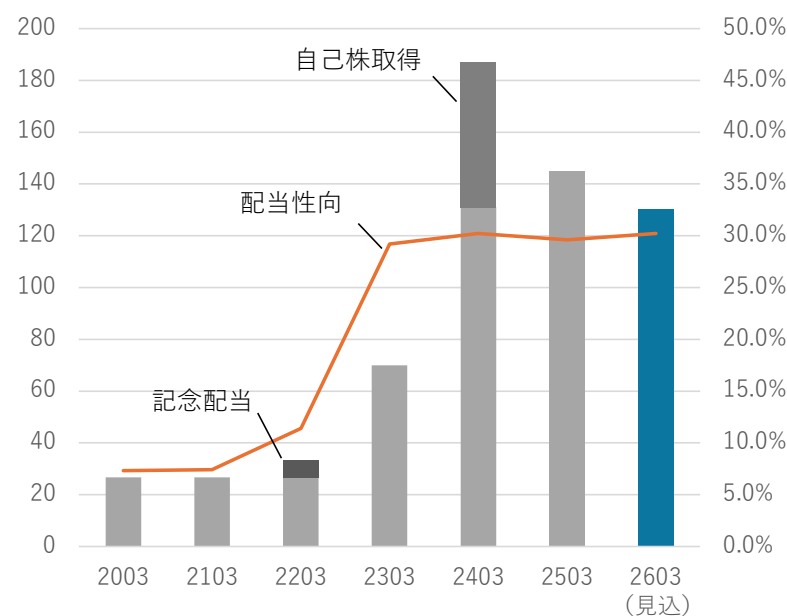
※必ずしも、P/L「特別区分」に計上された損益を意味しません

	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 (当期・見込)
1株当たり 当期純利益 ※1	434.06円	642.96円	430.05円
1株当たり配当額 ※2	131円	145円 (中間45円)	130円 (中間65円)
配当性向	30.2%	29.6% ※2	30.2%
自己株式取得	999百万円	-	未定
総還元性向	43.2%	29.6% ※2	30.2%

※1 2024年4月1日株式分割を表示期間期首に実施したものと計算しています

※2 配当方針に基づき「佐藤工業による持分法新規適用に伴う時価評価差額」および「繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴う法人税等調整額」を除いて計算しています
これらを除かない場合、配当性向は「22.6%」となります

1株当たり株主還元の推移 ※1 (単位：円)



「統合報告書2025」を発売しました。是非ご覧下さい！



川田グループ
統合報告書
2025



トップメッセージ

川田グループに関わるすべての皆様とともに、「八方よし」でさらなる経営の高みを目指す

川田グループは「KAWADA VISION 2030」に掲げる「八方よし」を実現することが持続的な企業成長につながるかと考えています。今後ともこの考え方を軸に、コンゴロビット・プレミアムへの進出を通じて、川田グループに関わるすべての皆様とともに人と社会のために貢献してまいります。



代表取締役社長
川田 志裕
KAWADA Shigeo

川田からのメッセージ

経営戦略

川田グループの新たな可能性を切り拓くソフトウェア関連事業

グループの成長の基盤を築くソフトウェア関連事業について、当事業を統括する川田テクノシステムの経営陣は、経営アナリストや投資家の視点からシナジーを創出し、成長を遂げました。成長の背景と今後の成長に向けた方針・戦略について紹介します。

Focus



川田テクノシステム特集

建設現場の変革に向けたグループ全体の取り組み

ロボティクス技術の応用、建設現場の自動化、業務効率化、ソフトウェア開発の高度化などにより、グループ全体の成長を加速させています。この取り組みを通じて、建設現場の生産性向上と、安全・安心の実現を目指しています。



建設現場変革への取り組み

コーポレート・ガバナンス

社外取締役座談会

当社は、グループの持続的な成長と社会貢献の向上を図るため、専門・分野の異なる社外取締役を選任し、経営とコーポレート・ガバナンスの両面で積極的な役割を担っていただきます。本報告書の発行に際しては、社外取締役のうち3名が参加し、川田グループに対する期待や今後の成長に向けた見通しについて話し合いました。



社外取締役3名の鼎談

弊社ウェブサイトからご覧下さい！

https://www.kawada.jp/ir/integrated_reports/



サステナビリティ

川田グループが考える企業の持続的な成長

当社は、環境・社会・経済の3つの側面から持続的な成長を実現するために取り組んでいます。環境面では、CO2削減と資源の有効活用を推進し、社会面では、従業員の活躍と地域社会への貢献を重視しています。経済面では、デジタル化とイノベーションを推進し、新たな成長機会を創出しています。



川田のサステナビリティ

【参考】 主な業績指標の推移（期末）

（単位：百万円）

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 中間
売上高	103,760	118,086	129,127	132,905	55,346
営業利益	6,412	5,025	8,734	9,684	3,172
経常利益	7,689	6,298	10,538	12,616	3,958
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	5,176	4,231	7,541	11,107	3,142
1株当たり当期(中間)純利益(円) ※	292.54	239.94	434.06	642.96	180.53
自己資本当期純利益率(%)	7.6	5.8	9.6	12.8	3.42%
総資産経常利益率(%)	5.5	4.3	6.5	7.7	2.41%
売上高営業利益率(%)	6.2	4.3	6.8	7.3	5.73%
総資産	133,337	162,158	160,238	165,511	162,503
純資産	71,921	76,697	82,363	91,569	93,055
自己資本比率(%)	53.2	46.6	51.1	55.0	57.0%
1株当たり純資産(円) ※	4,009.61	4,288.11	4,754.54	5,238.20	5,307.07
営業活動によるキャッシュフロー	20,391	-9,673	13,320	9,839	4,061
投資活動によるキャッシュフロー	-1,948	-1,504	-2,553	-2,981	-39
財務活動によるキャッシュフロー	-15,811	12,213	-10,337	-8,659	489
1株あたり年間配当金(円) ※	33.33円 (うち記念配当6.67円)	70円	131円	145円 (うち、中間期45円)	130円予定 (うち、中間期65円)

※ 2024年4月1日株式分割を表示期間期首に実施したものととして計算しています

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性について保証するものではありません。また、本資料に記載される当社グループの計画、見積、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断または考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、経済情勢、業界の市場動向、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。

<お問合せ先>

川田テクノロジーズ株式会社 経営管理部
ir.kti@kawada.jp

 KAWADA technologies